

2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知
 - (8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

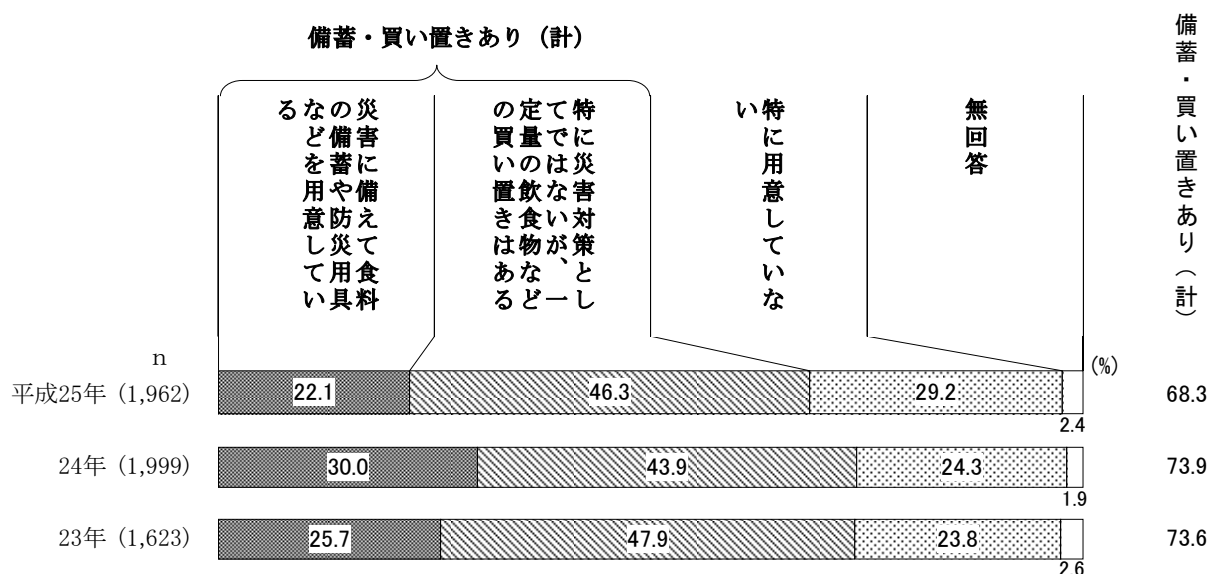
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 家庭備蓄をしていない方が増加

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。(〇は1つだけ)

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.1%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.3%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は68.3%となっている。一方、「特に用意していない」は29.2%となっている。

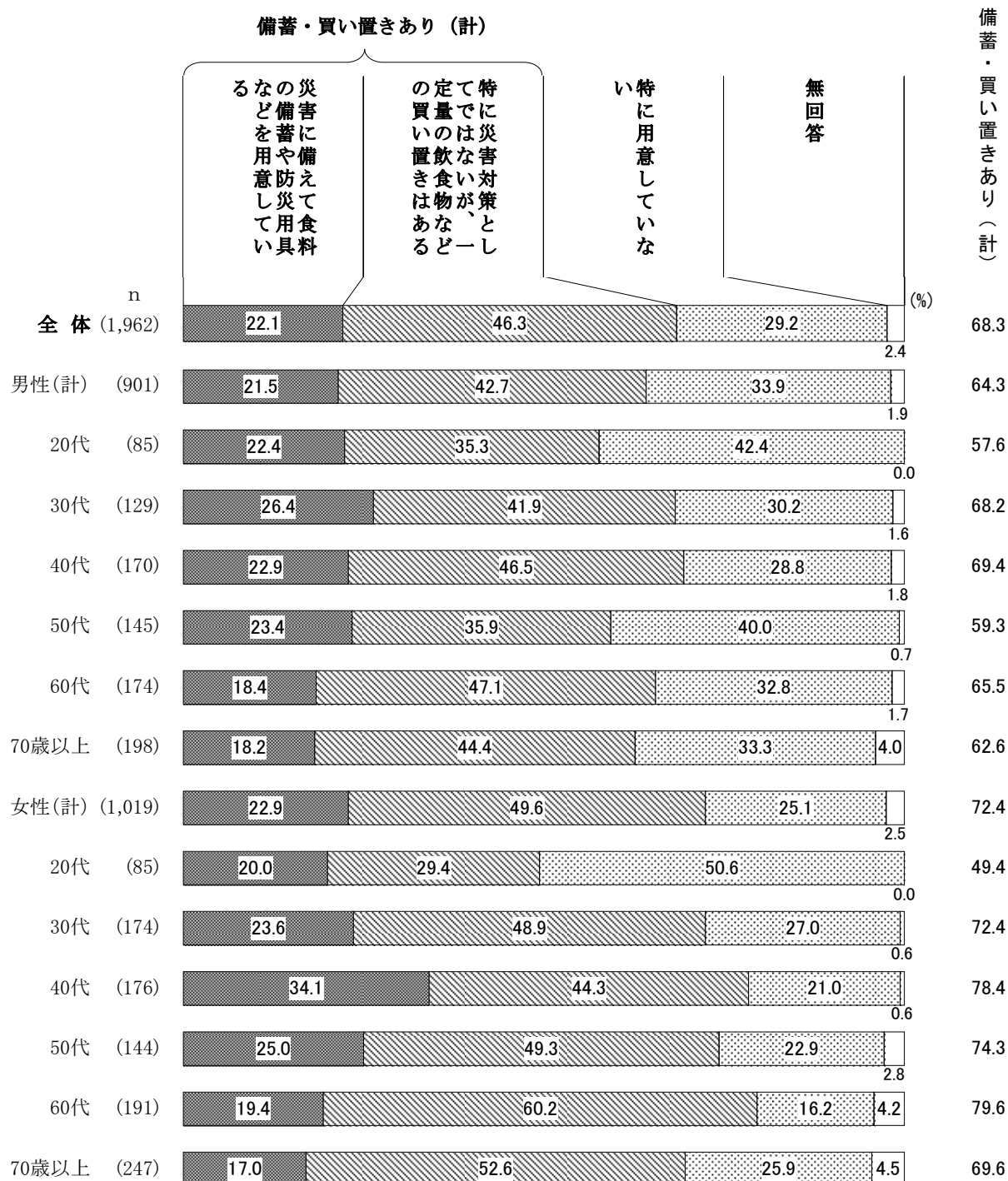
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の30.0%から、今回22.1%と7.9ポイント低下している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、今回46.3%と、前回の43.9%より2.4ポイント微増している。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は、男性64.3%、女性72.4%と女性が高くなっている。
 性・年代別で見ると、男性の場合、30代、40代で、【備蓄・買い置きあり】が7割近くを占め、他の年代より高くなっている。

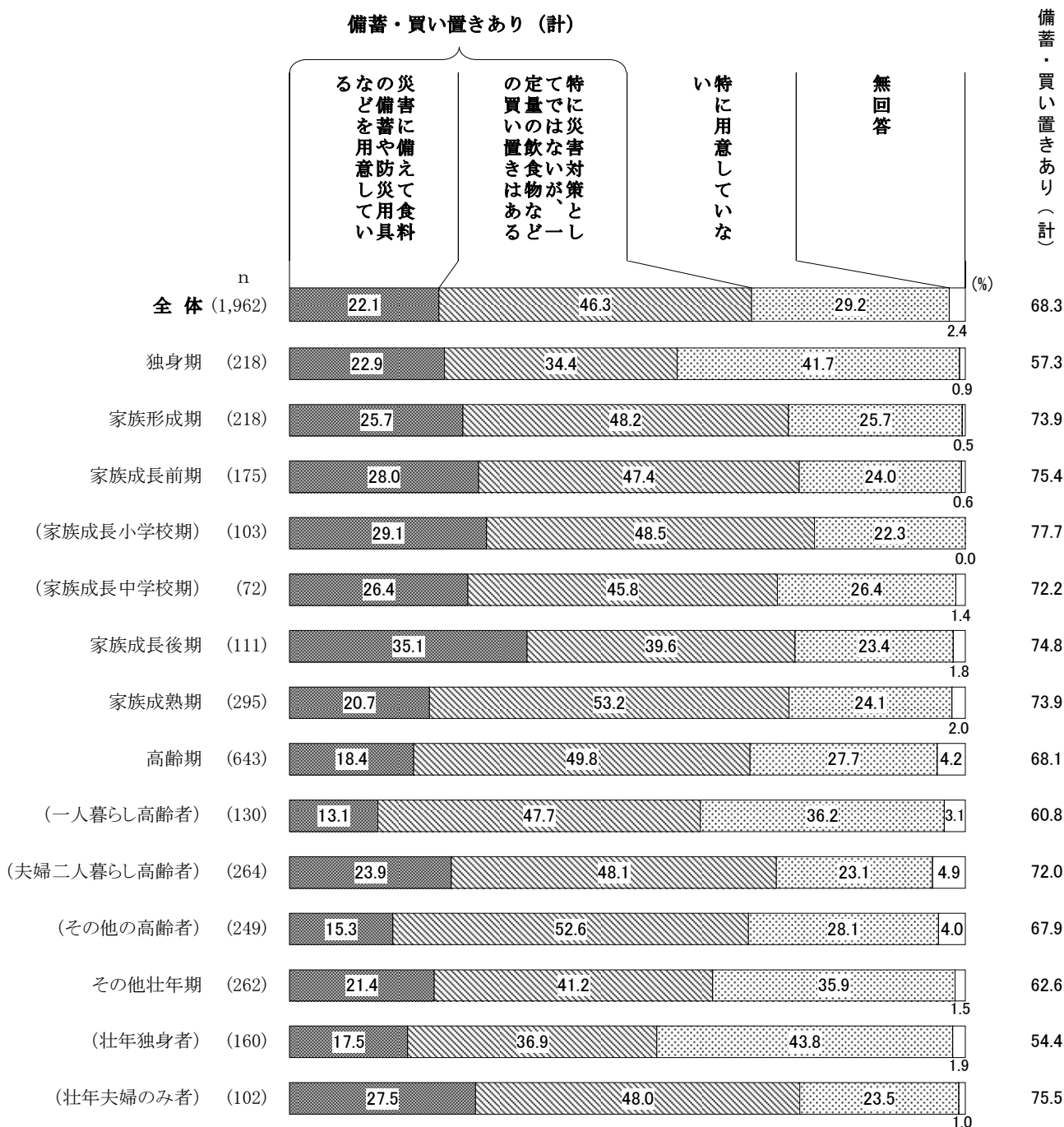
女性の場合、30代から60代で【備蓄・買い置きあり】が7割を超え、高くなっている。「特に用意していない」は女性20代で5割を超え、最も高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長前期、中でも家族成長小学校期で77.7%と高くなっている。一方、「特に用意していない」は独身期（41.7%）と壮年独身者（43.8%）で4割を超え高くなっている。

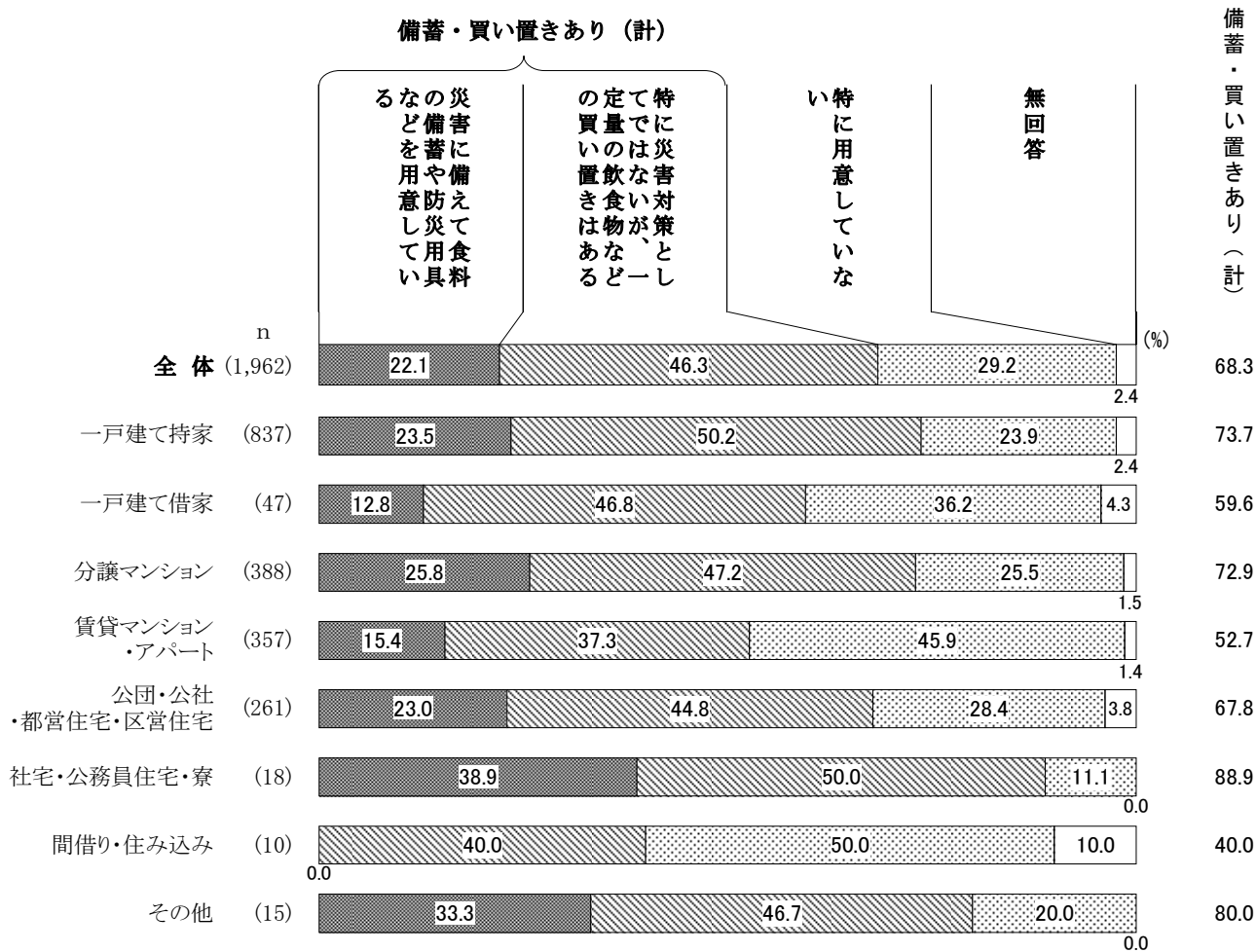
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンションでは、【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ73.7%、72.9%と高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ59.6%、52.7%と低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

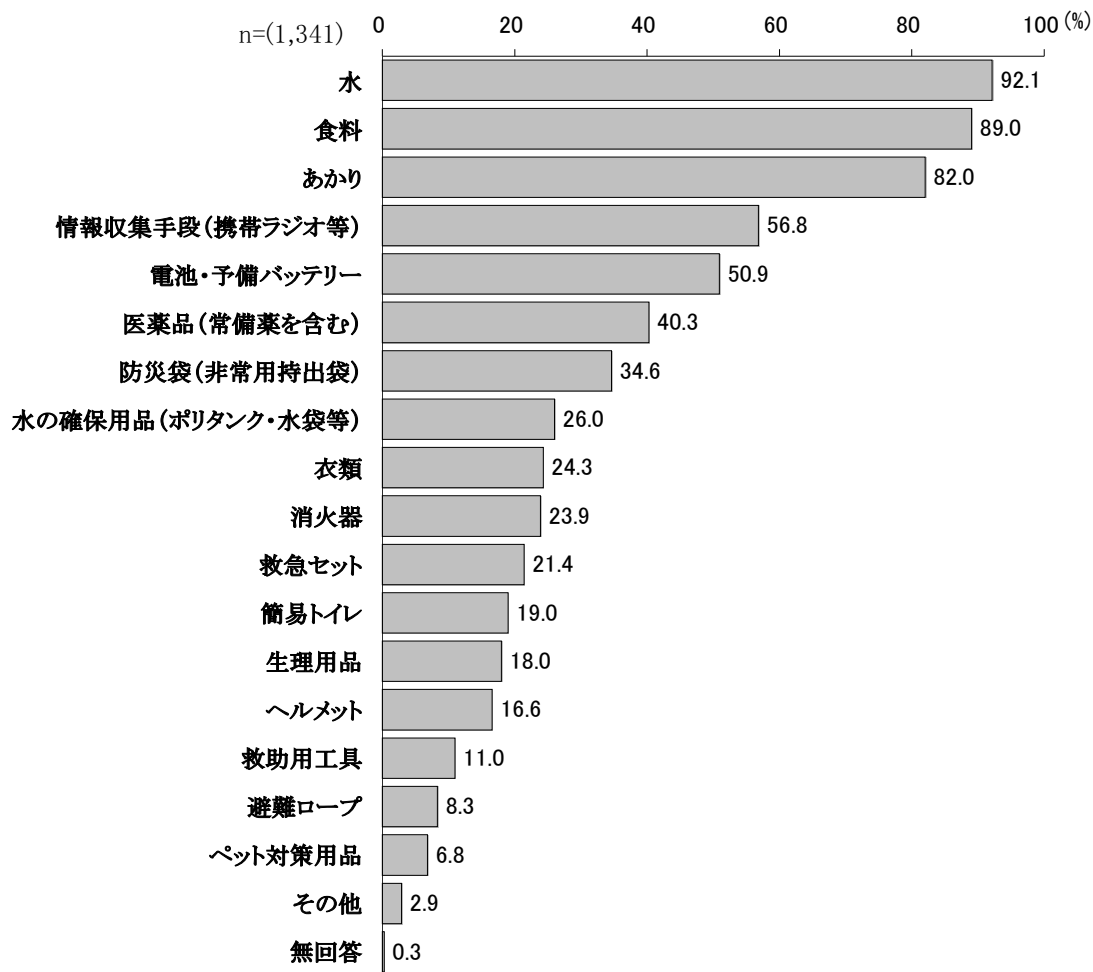
■ 「水」と「食料」が9割前後

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(○はあてはまるものすべて)

図2-2-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

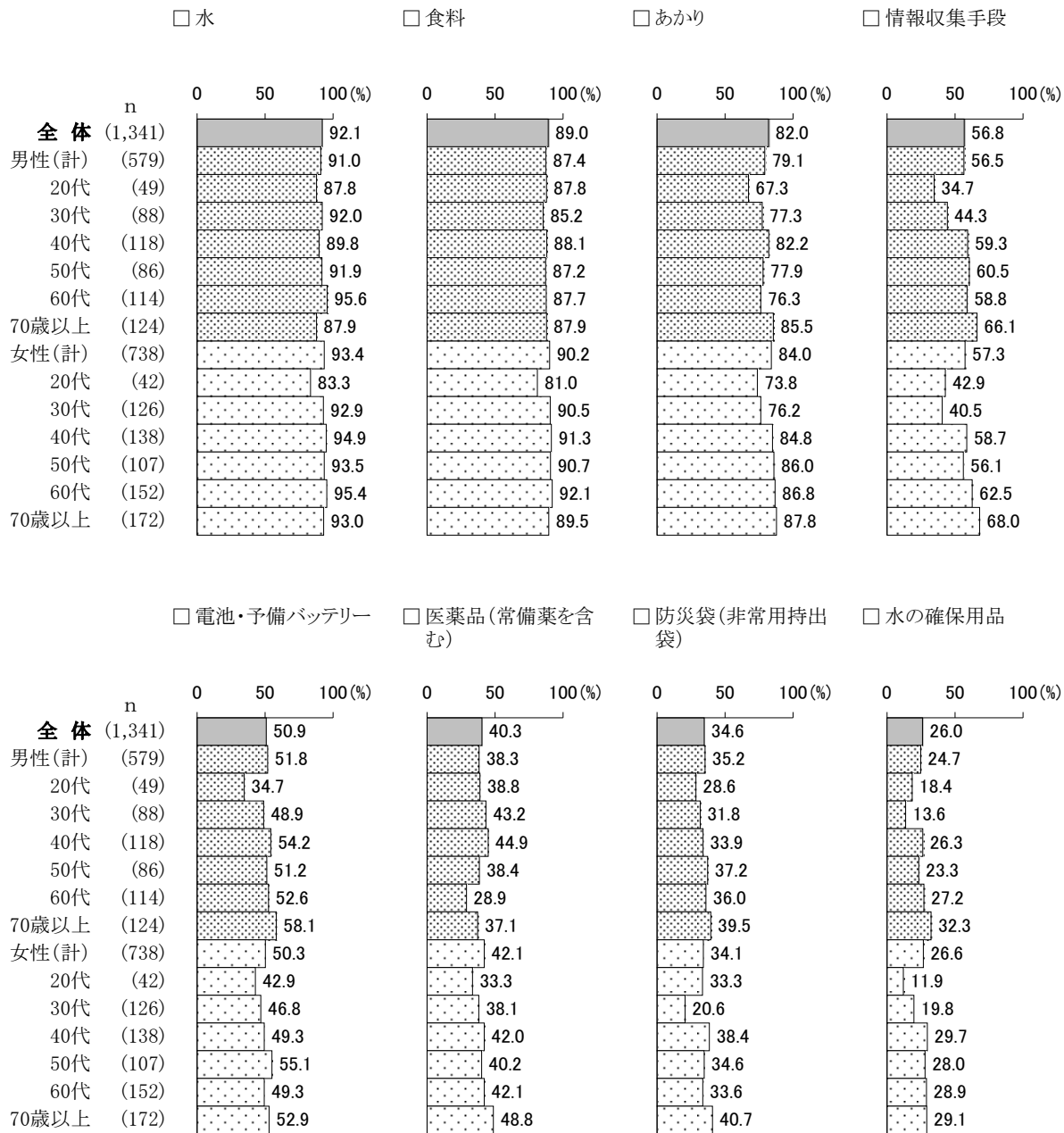


【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が92.1%で最も高く、以下「食料」(89.0%)、「あかり」(82.0%)の順となっている。

第3章 調査結果の分析

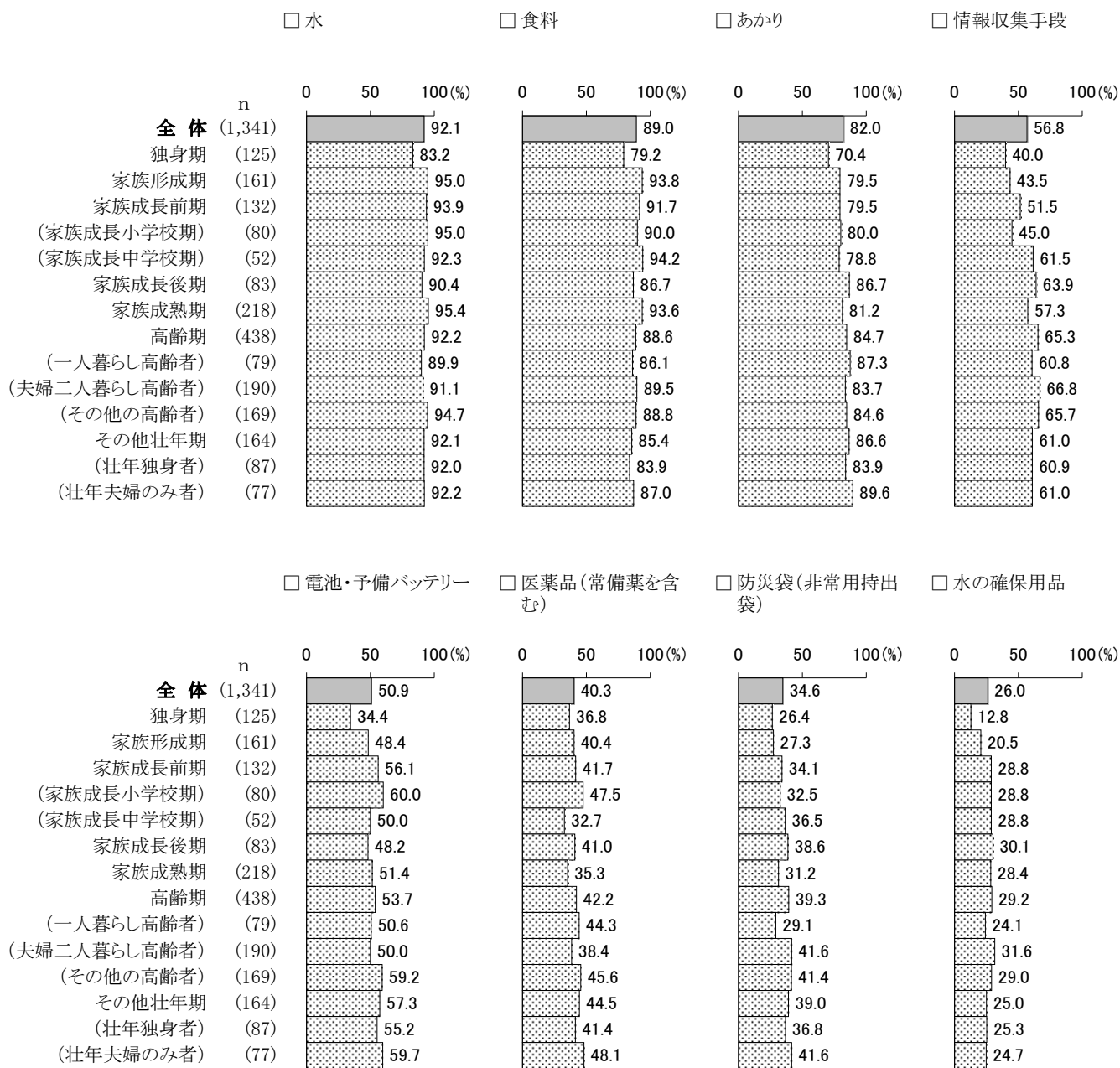
性別でみると、いずれの項目についても、大きな男女差はみられない。
 性・年代別でみると、「水」と「食料」は、男女とも各年代にわたって高くなっている。
 また、「情報収集手段」は、男女とも、年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別で見ると、「水」と「食料」は、各ステージを通じて高くなっている。
また、「情報収集手段」については、ステージが進行するにつれて、高くなる傾向がある。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

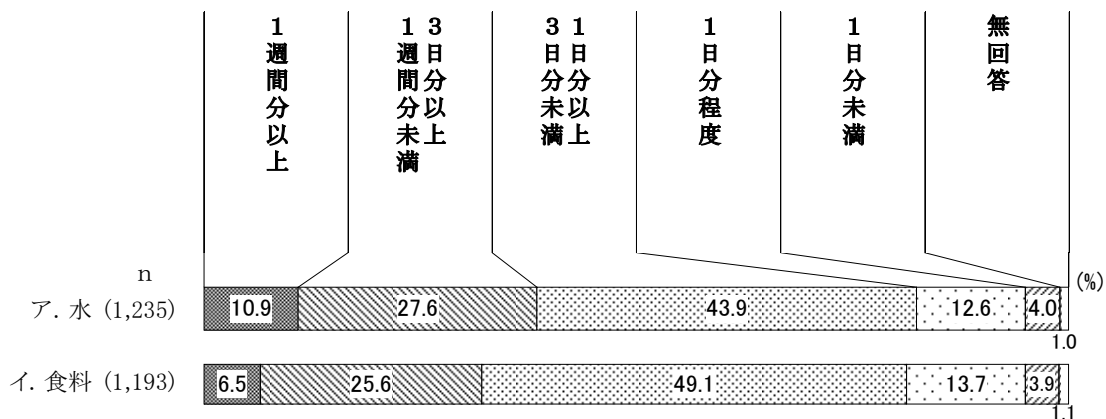
■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、4割台

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

図2-3-1 備蓄量



「水」「食料」を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「1日分以上3日分未満」が43.9%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(27.6%)となっている。

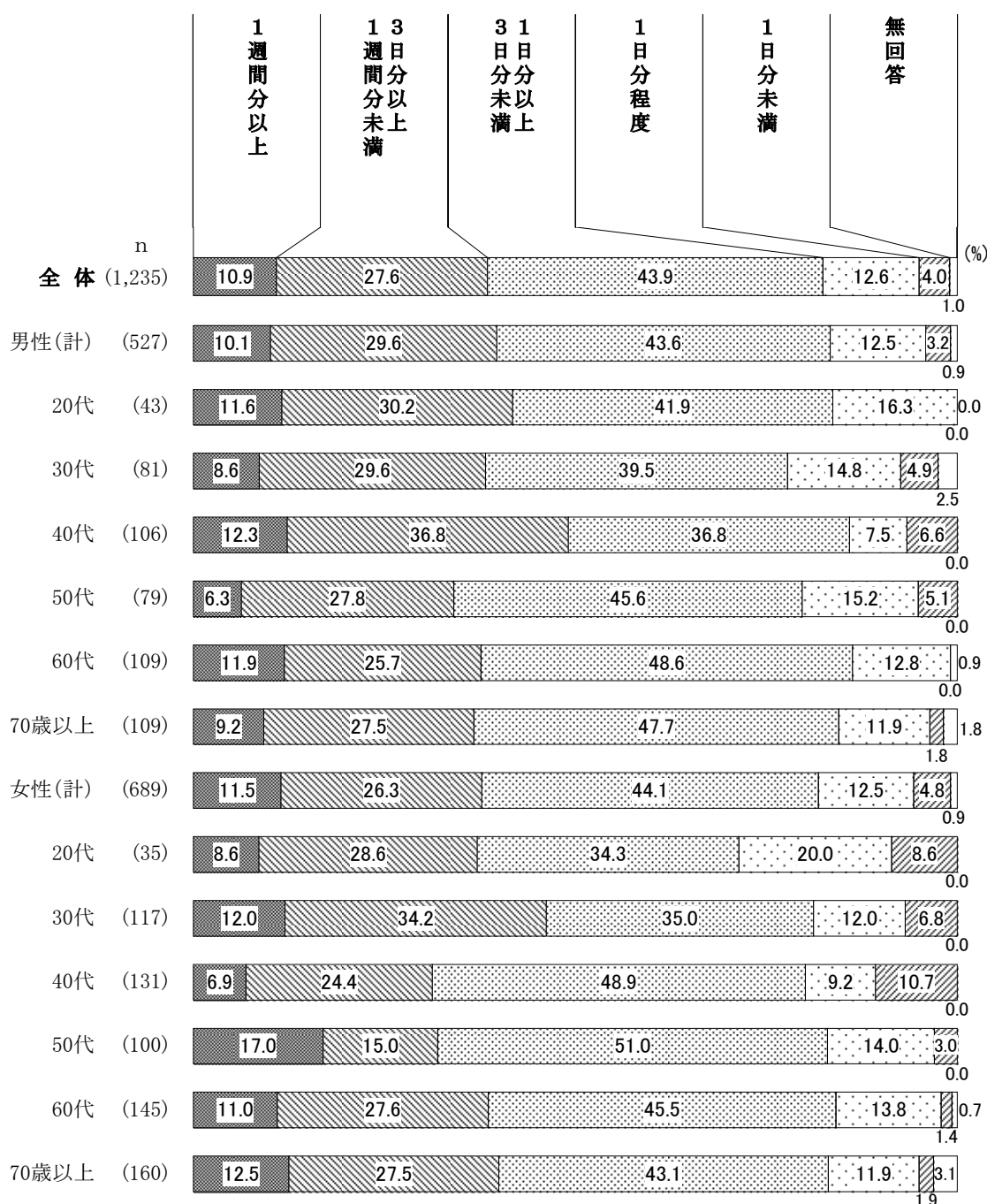
〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が49.1%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(25.6%)となっている。

水の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、20代、30代、50代、60代、70歳以上では「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっているが、40代では「1日分以上3日分未満」と「3日分以上1週間分未満」が、いずれも36.8%となっている。

女性の場合、20代、40代、50代、60代、70歳以上では「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっているが、30代では「1日分以上3日分未満」(35.0%)と「3日分以上1週間分未満」(34.2%)でほぼ同じ数値となっている

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



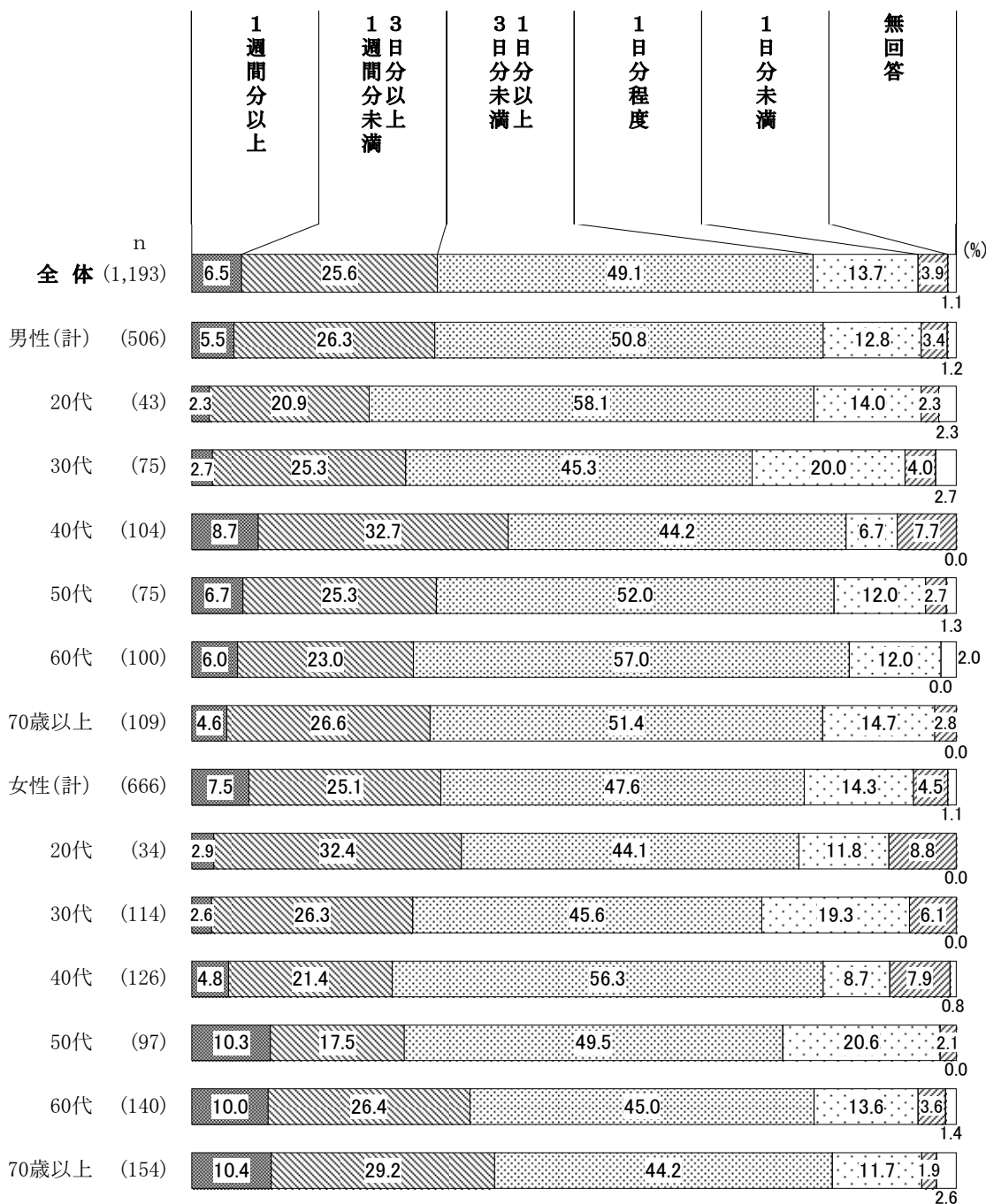
第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量を性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性の場合、いずれの年代でも「1日分以上3日分未満」が高くなっている。また、40代では「3日分以上1週間分未満」が32.7%と、他の年代より高くなっている。

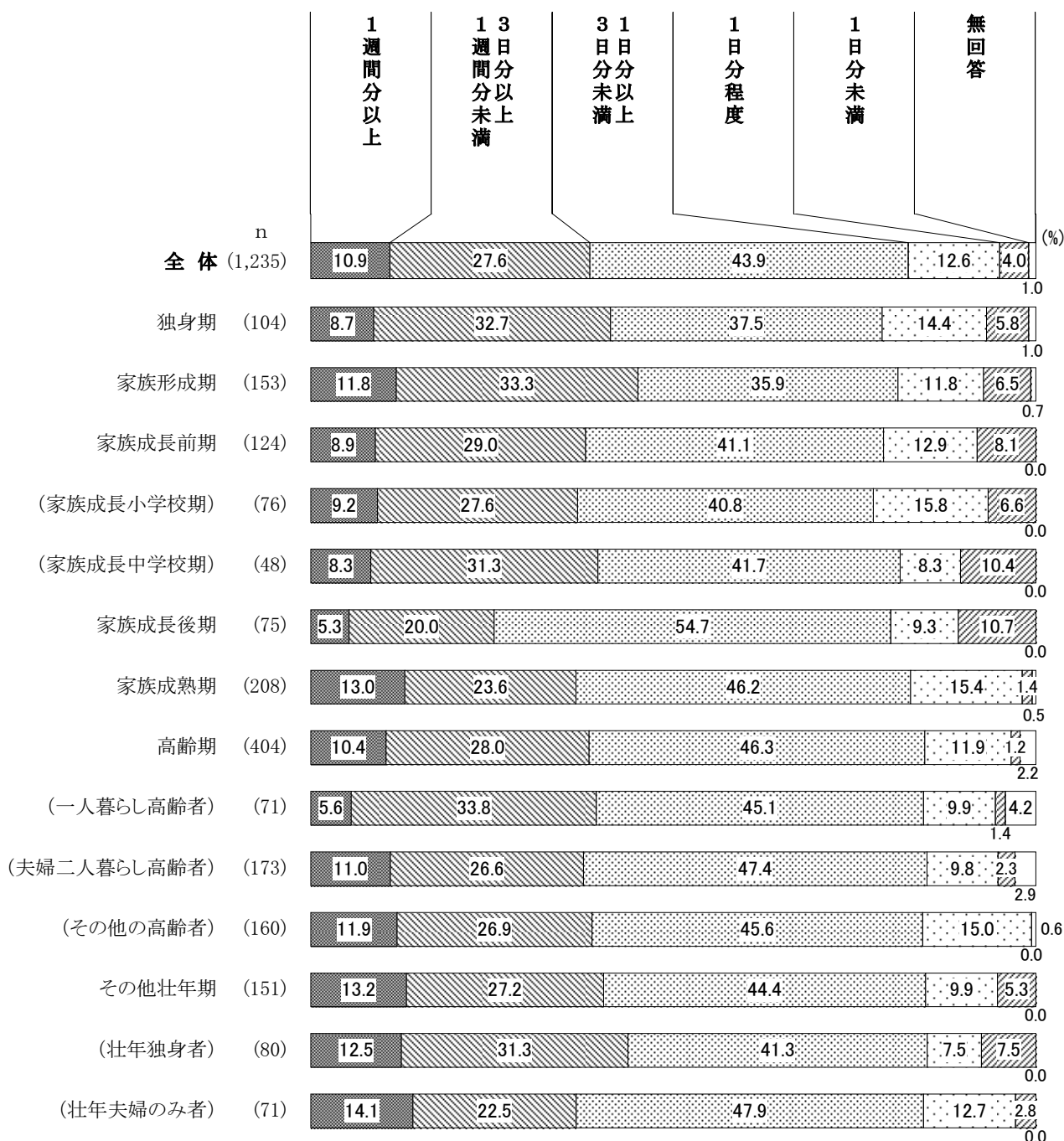
女性の場合、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高く、とくに40代では56.3%となっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



水の備蓄量をライフステージ別でみると、独身期、家族形成期では「1日分以上3日分未満」と「3日分以上1週間分未満」が拮抗しているが、家族成長前期以降は「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回り、家族成長後期では54.7%を占めている。

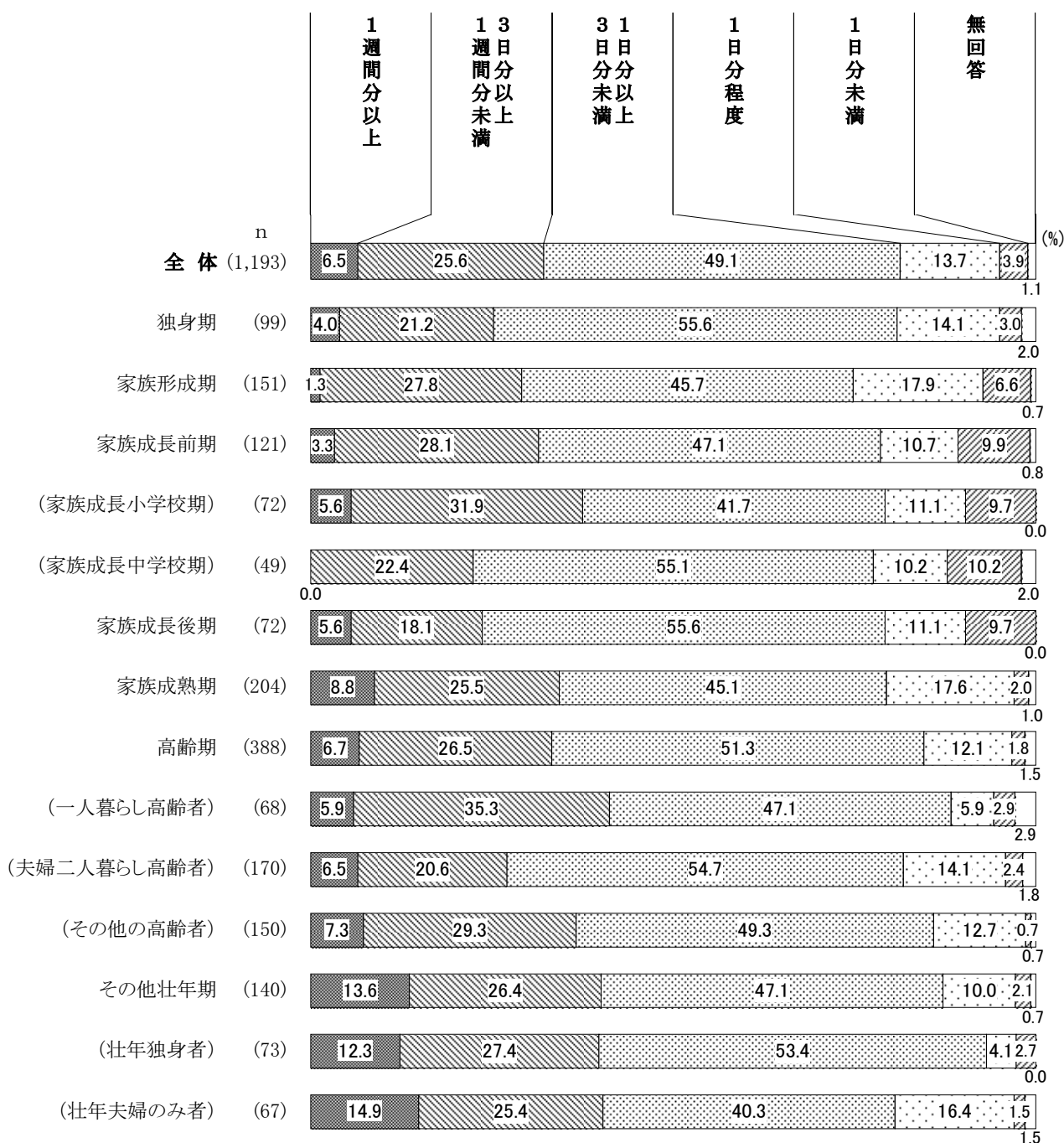
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量をライフステージ別で見ると、いずれのステージでも、「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高く、とくに独身期、家族成長中学校期、家族成長後期では5割半ばを超えている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

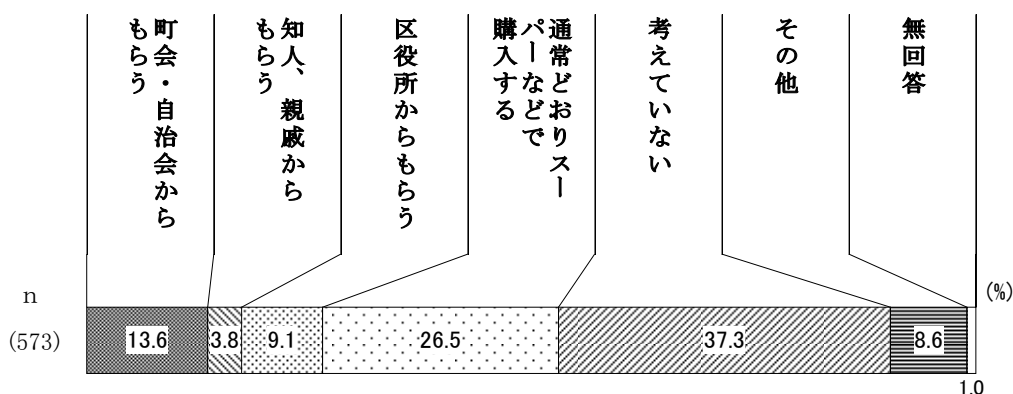
■ 「通常どおりスーパーなどで購入する」と回答した人が2割台半ばも、「考えていない」が3割台半ば

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。

(○は1つだけ)

図2-4-1 災害発生時の水や食料の確保



備蓄や買い置きを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が26.5%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(13.6%)となっている。一方、「考えていない」が37.3%と4割近くを占めている。

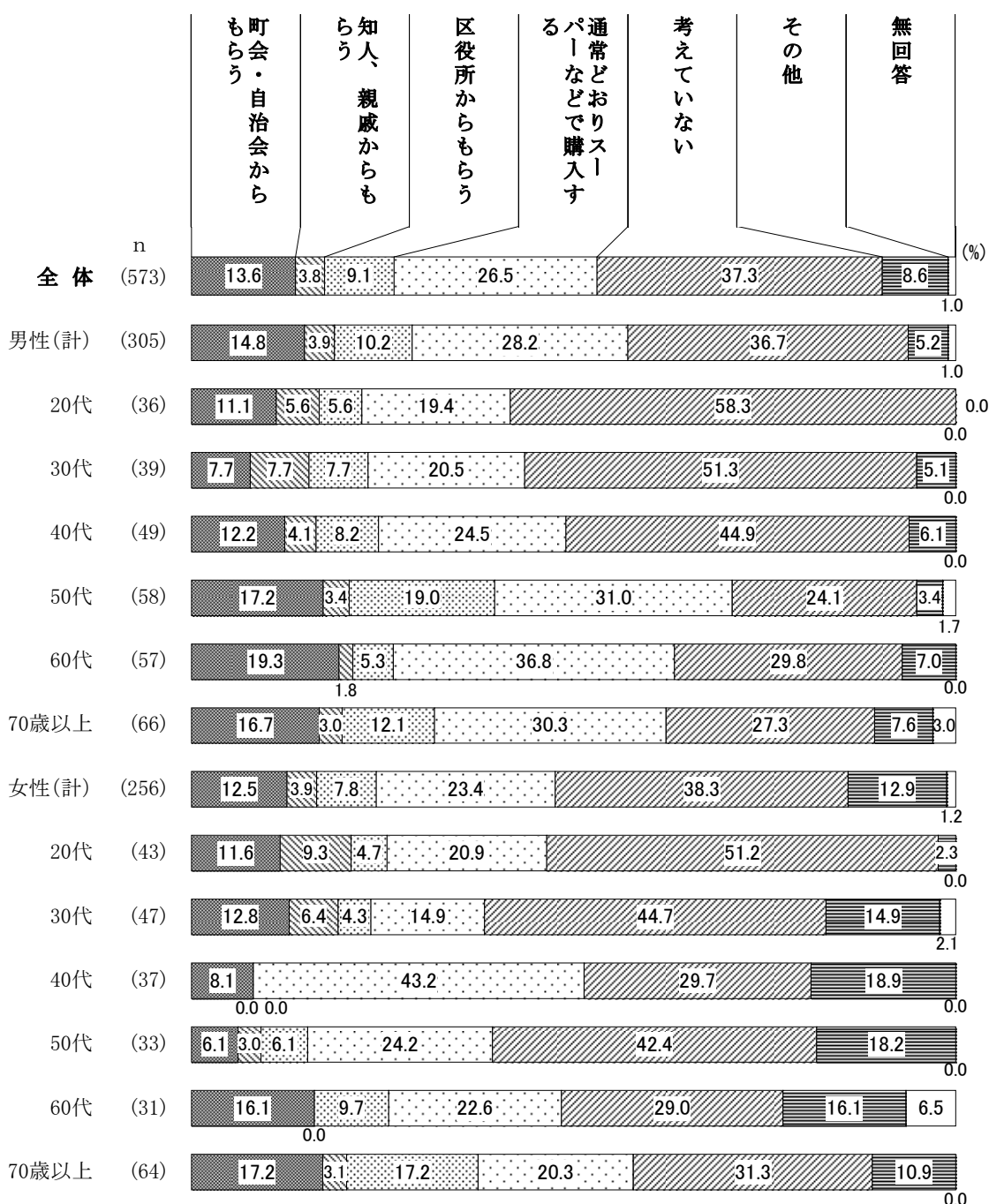
第3章 調査結果の分析

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、20代、30代では「考えていない」が5割を超えている。50代から70歳以上では「町会・自治会からもらう」が1割台半ば以上と、他の年代より高くなっている。また、50代、60代、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超えて、他の年代より高くなっている。

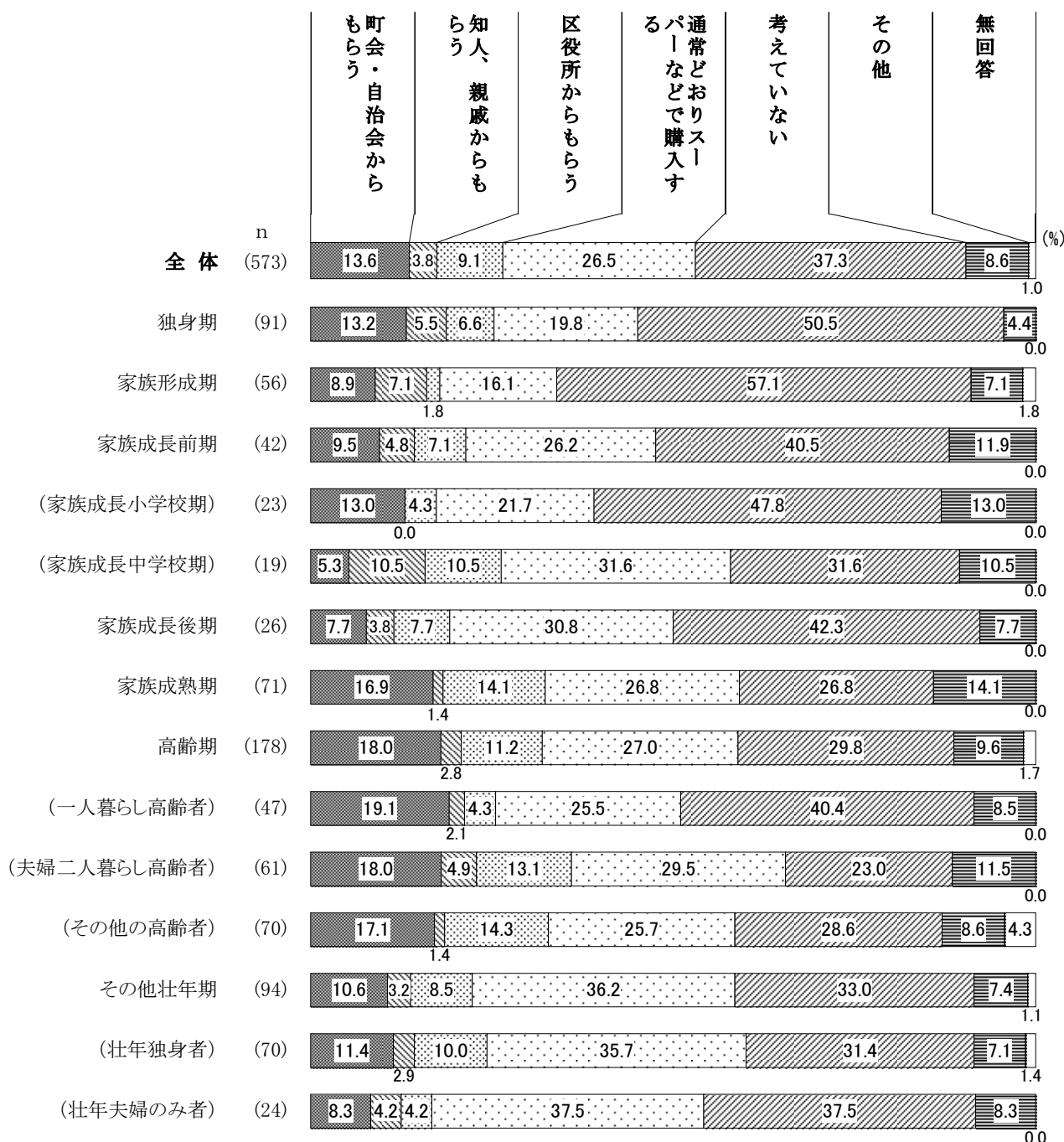
女性の場合、20代、30代、50代では「考えていない」が4割を超えている。一方、40代では「通常どおりスーパーなどで購入する」が43.2%と極めて高くなっている。

図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別でみると、独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成長小学校期、家族成長後期、一人暮らし高齢者では「考えていない」が4割を超えて高くなっている。家族成長中学校期、家族成長後期、その他壮年期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超え、他のステージより高くなっている。家族成熟期、高齢期になると、「町会・自治会からもらう」が1割台半ばを超えている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



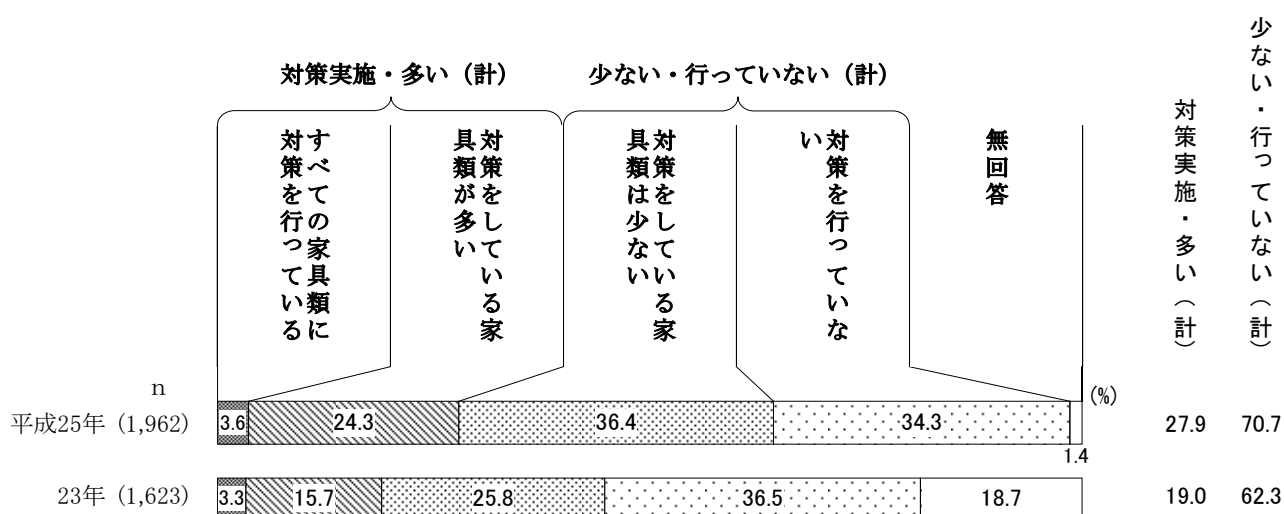
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしている方が約3割、対策をしていない方が約7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか。（○は1つだけ）

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 平成23年度調査比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.6%で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.3%を合わせた【対策実施・多い】が27.9%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.4%、「対策を行っていない」は34.3%となっている。

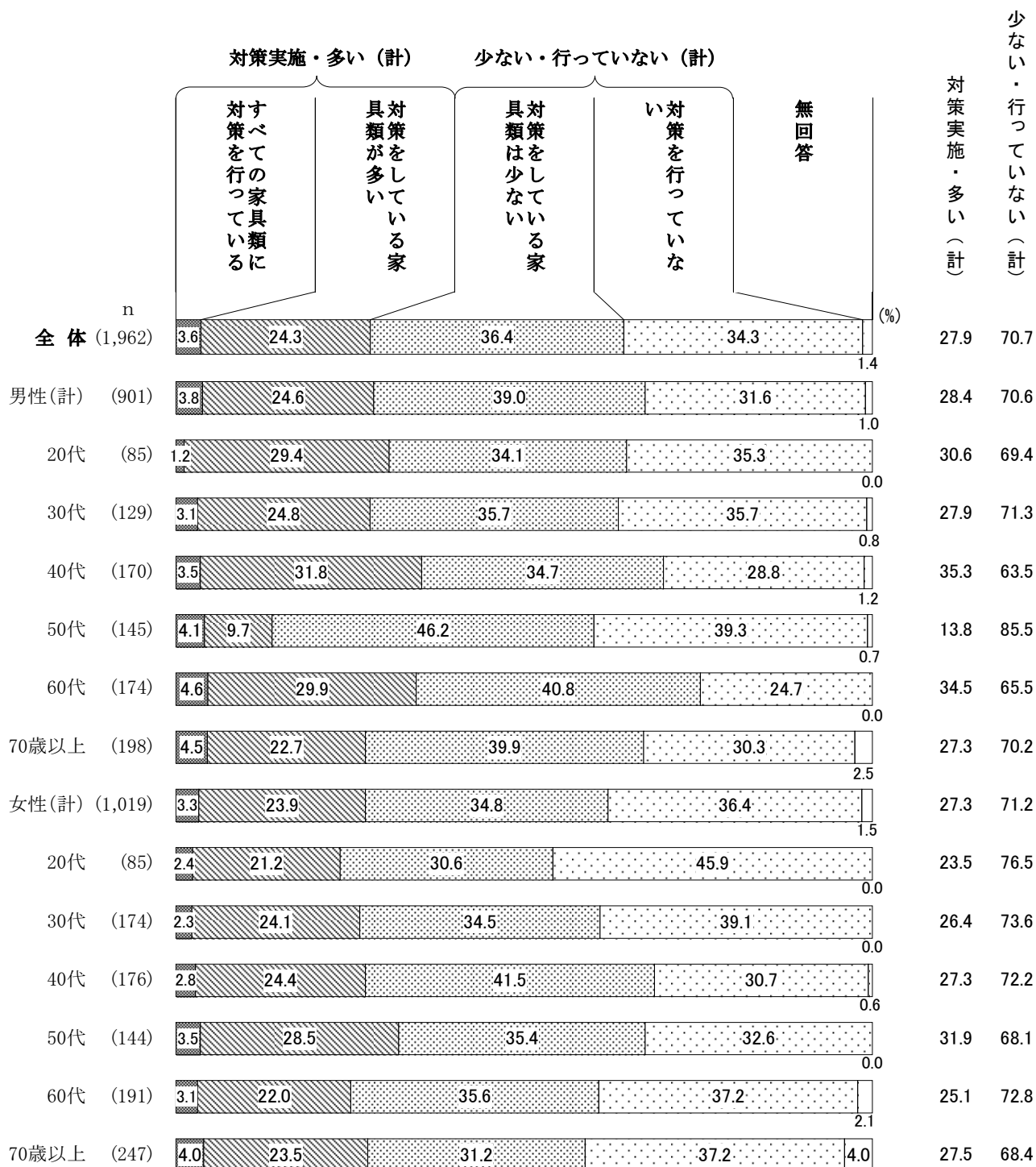
平成23年度調査と比較すると、【対策実施・多い】は19.0%から27.9%へと、8.9ポイント上昇している。また、【少ない・行っていない】は62.3%から70.7%と8.4ポイント上昇した。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、40代、60代では【対策実施・多い】が、それぞれ35.3%、34.5%と高くなっている。一方、50代では【対策実施・多い】が、13.8%と他の年代よりかなり低くなっている。

女性の場合、20代を除くと、いずれの年代も【対策実施・多い】が2割台半ばを超え、高くなっている。

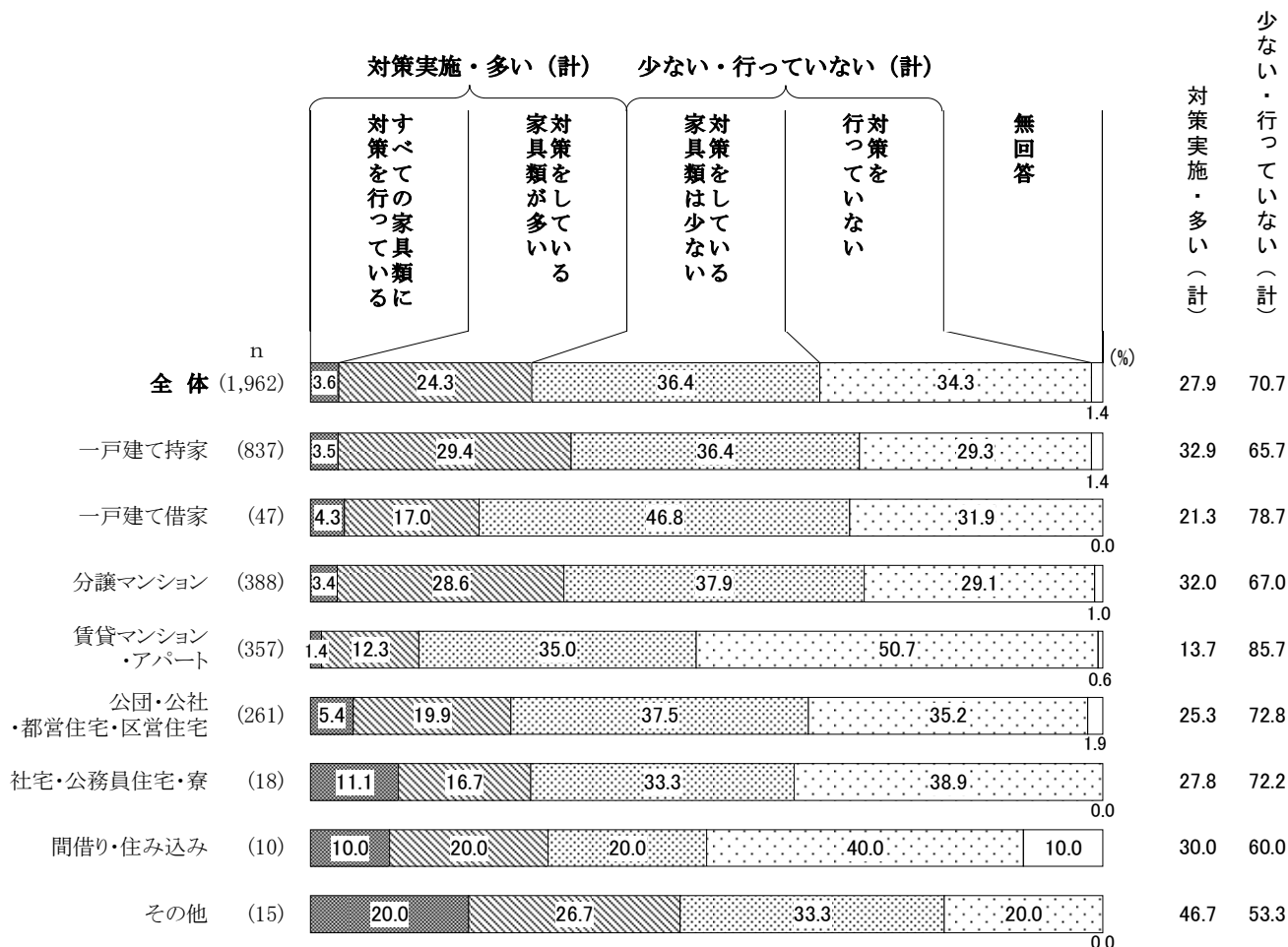
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



第3章 調査結果の分析

住居形態別で見ると、一戸建て持家、分譲マンションでは【対策実施・多い】が、それぞれ32.9%、32.0%と3割を超えて、他の住居形態よりやや高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



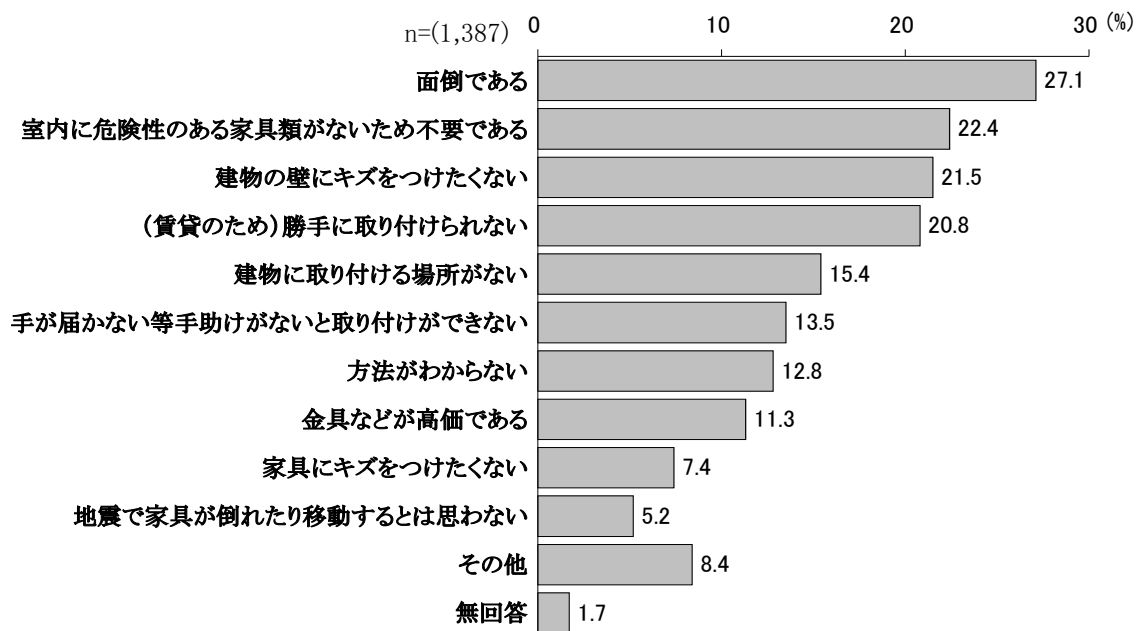
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒” “不要” “キズをつけたくない” “勝手にできない” が2割台で上位

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方へ

問7—1 どのような理由からですか。(〇はあてはまるものすべて)

図2-6-1 対策をしていない理由

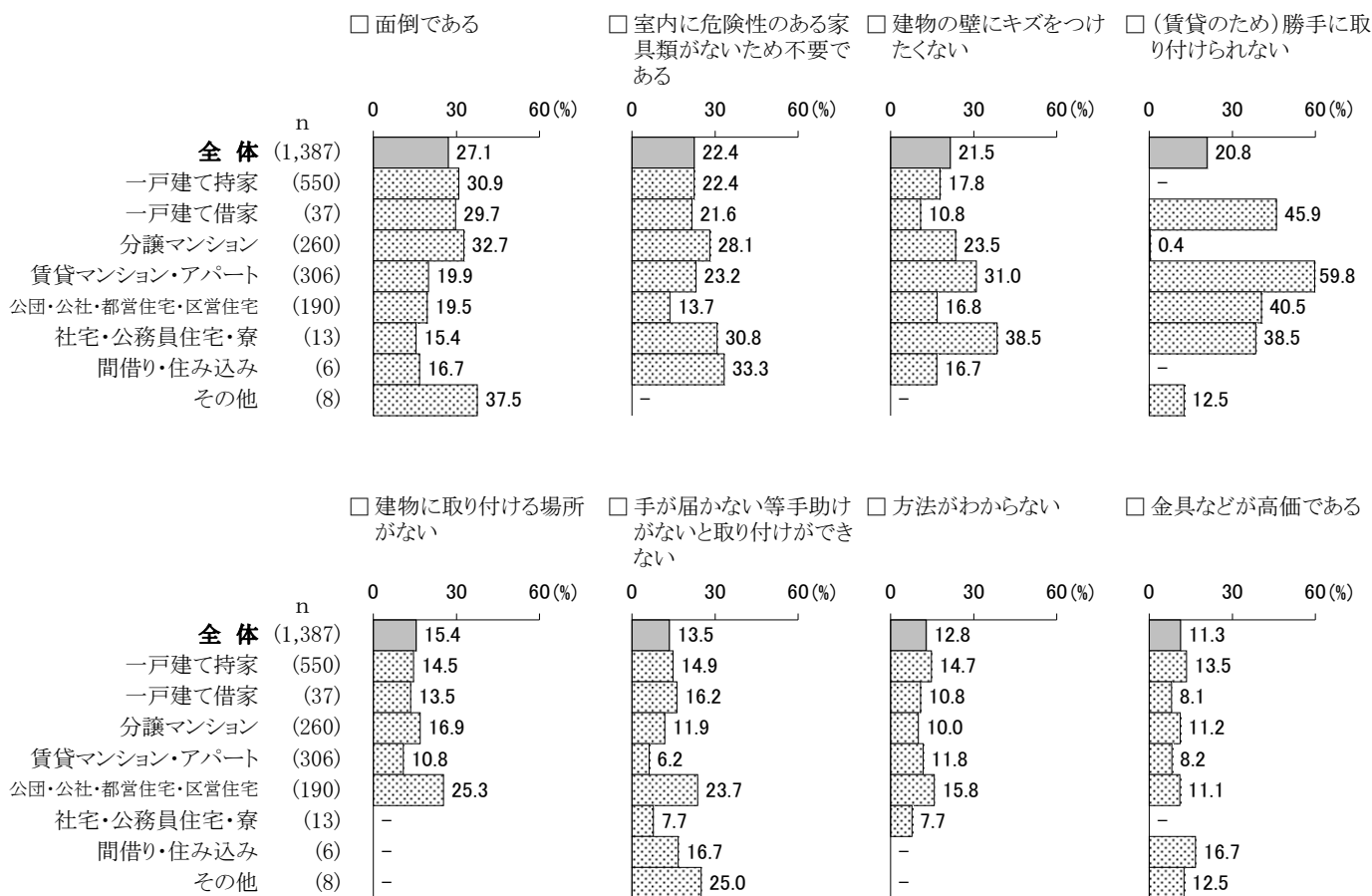


【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が27.1%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(22.4%)、「建物の壁にキズをつけたくない」(21.5%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(20.8%)の順となっている。

第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、分譲マンションでは、「面倒である」がいずれも3割前後を占めている。一方、賃貸マンション・アパートでは、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が59.8%と6割近くを占めているほか、「建物の壁にキズをつけたくない」も31.0%と高くなっている。

図2-6-2 住居形態別/対策をしていない理由/上位8項目



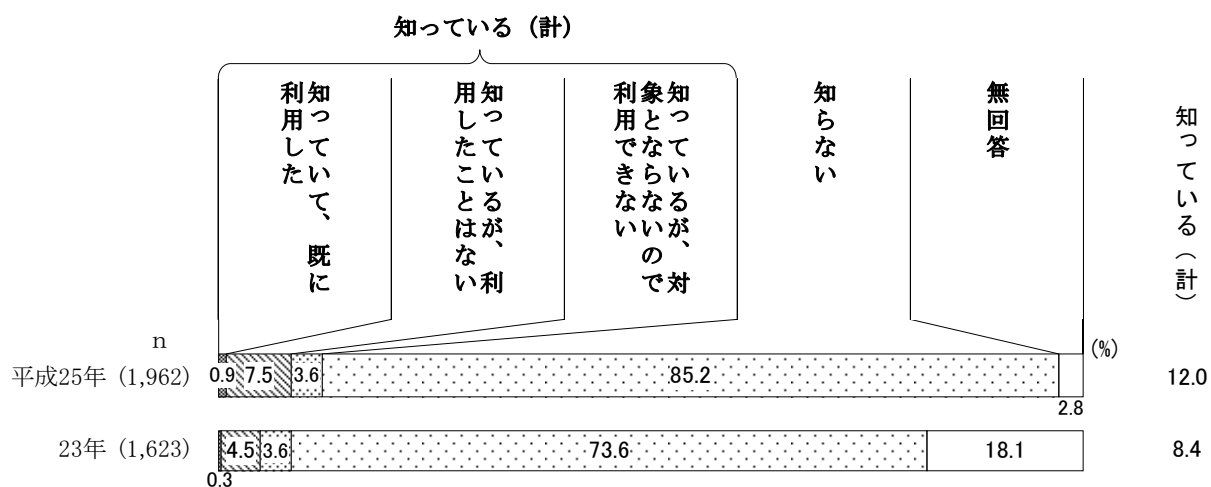
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

■ 「知らない」は8割以上

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。(○は1つだけ)

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

図2-7-1 平成23年度調査比較／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



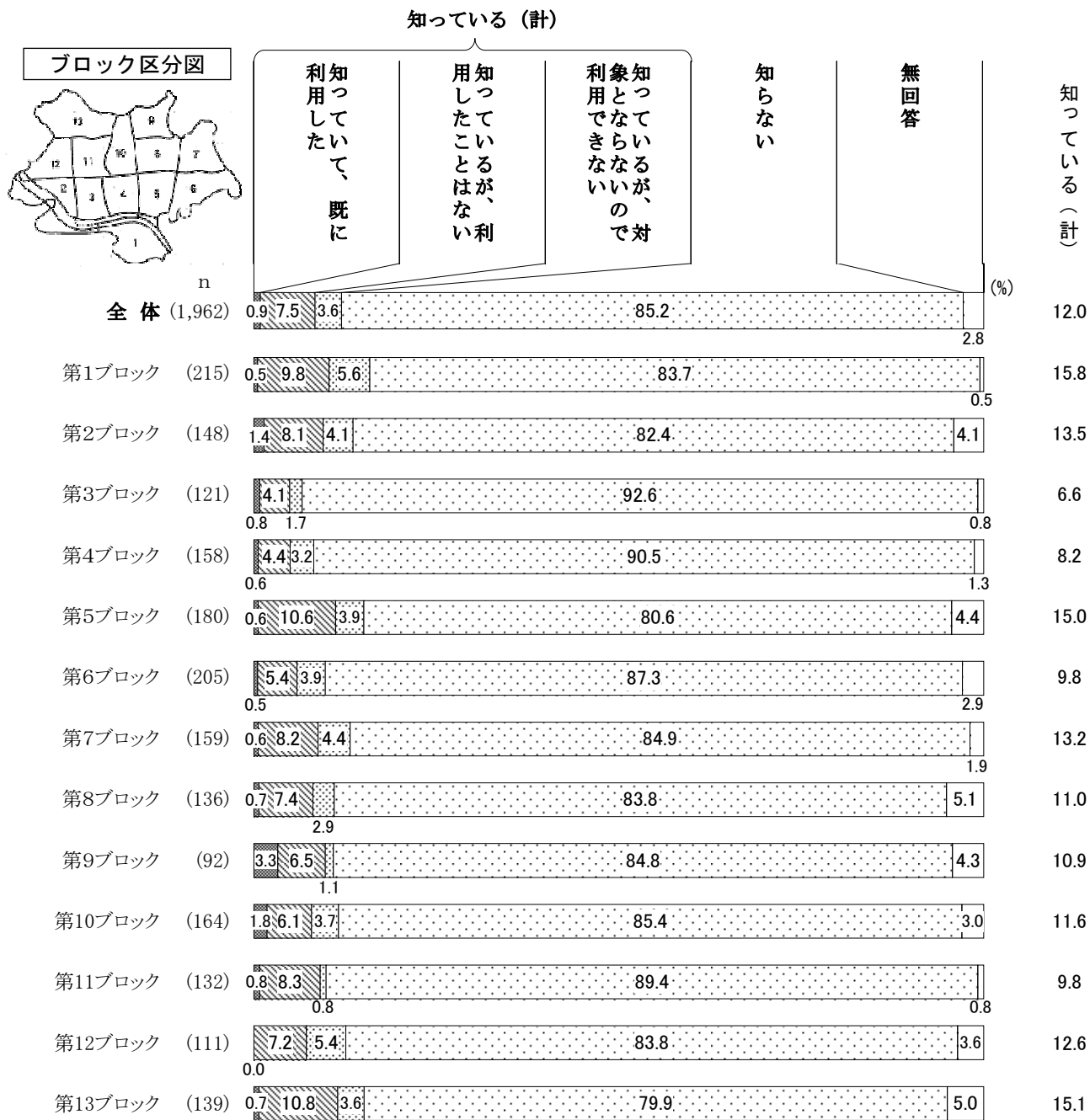
家具転倒防止器具取付、ブロック塀倒壊防止、窓ガラス飛散防止の工事についての費用助成制度について、「知っていて、既に利用した」は0.9%で、これに「知っているが、利用したことはない」(7.5%)、「知っているが、対象とにならないので利用できない」(3.6%)を合わせた【知っている】は12.0%となっている。

平成23年度調査と比較すると、【知っている】は8.4%から12.0%へと、3.6ポイント上昇している。また、「知らない」は73.6%から85.2%と、11.6ポイント上昇した。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第1ブロック、第5ブロック、第13ブロックでは、【知っている】は、それぞれ15.8%、15.0%、15.1%と、他のブロックに比べてやや高くなっている。

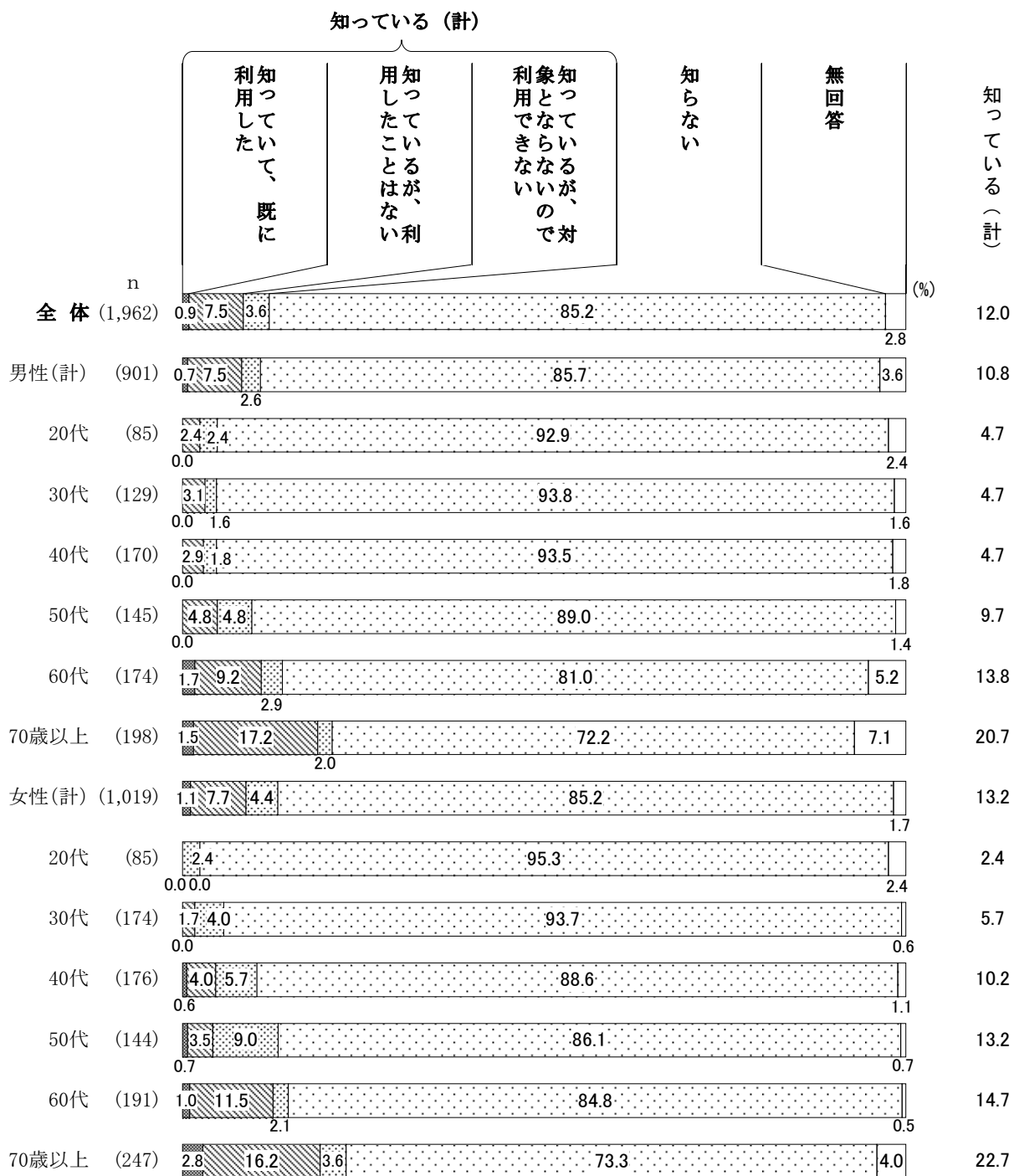
図2-7-2 地域ブロック別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



性別でみると、【知っている】は、男性10.8%、女性13.2%となっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男女とも若年層では低く、加齢とともに増加し、70歳以上では2割を超えている。

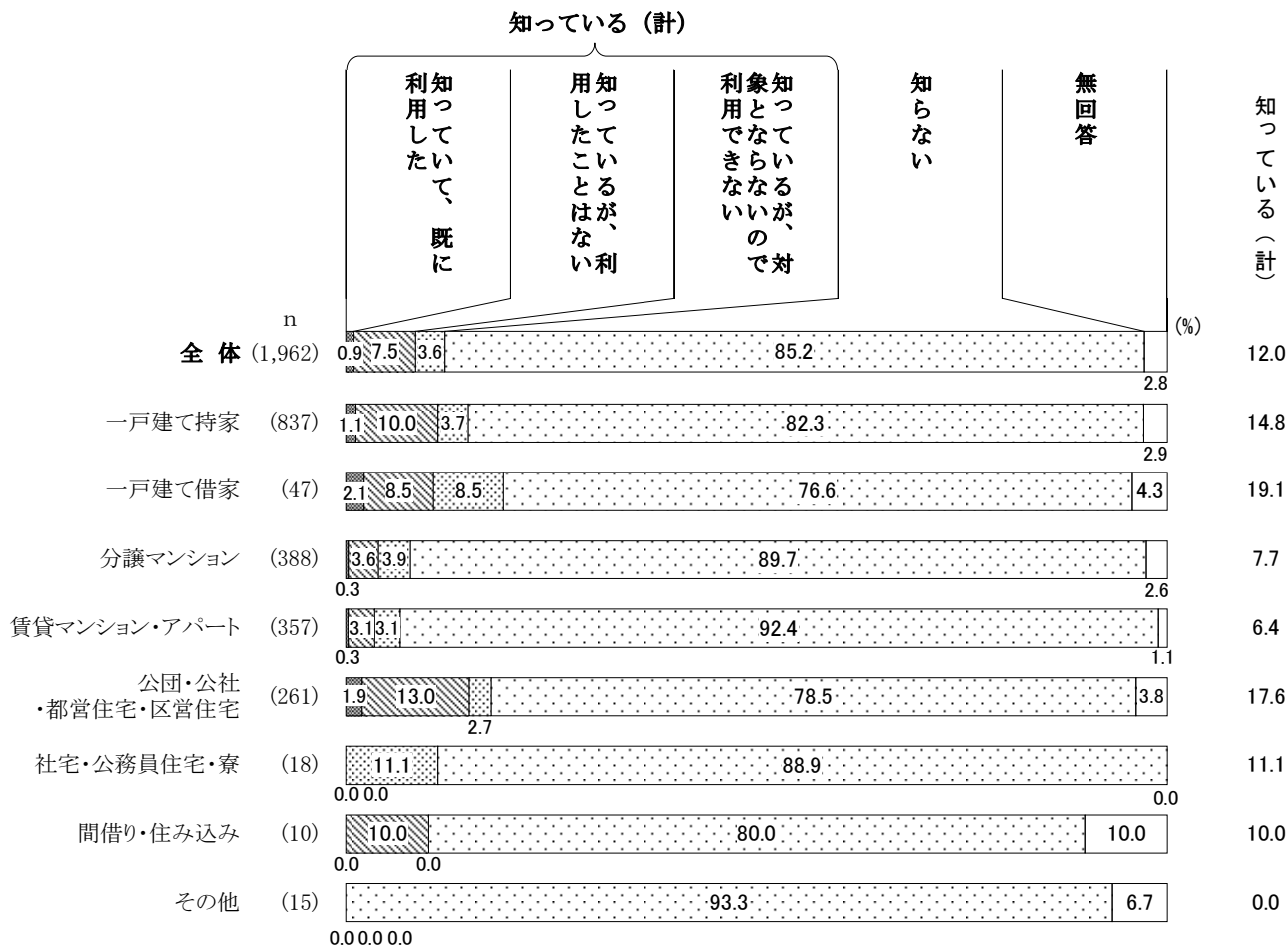
図2-7-3 性別、性・年代別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て借家、公団・公社・都営住宅・区営住宅では【知っている】が、それぞれ19.1%、17.6%と2割近くを占めて、他の住居形態より高くなっている。

図2-7-4 住居形態別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

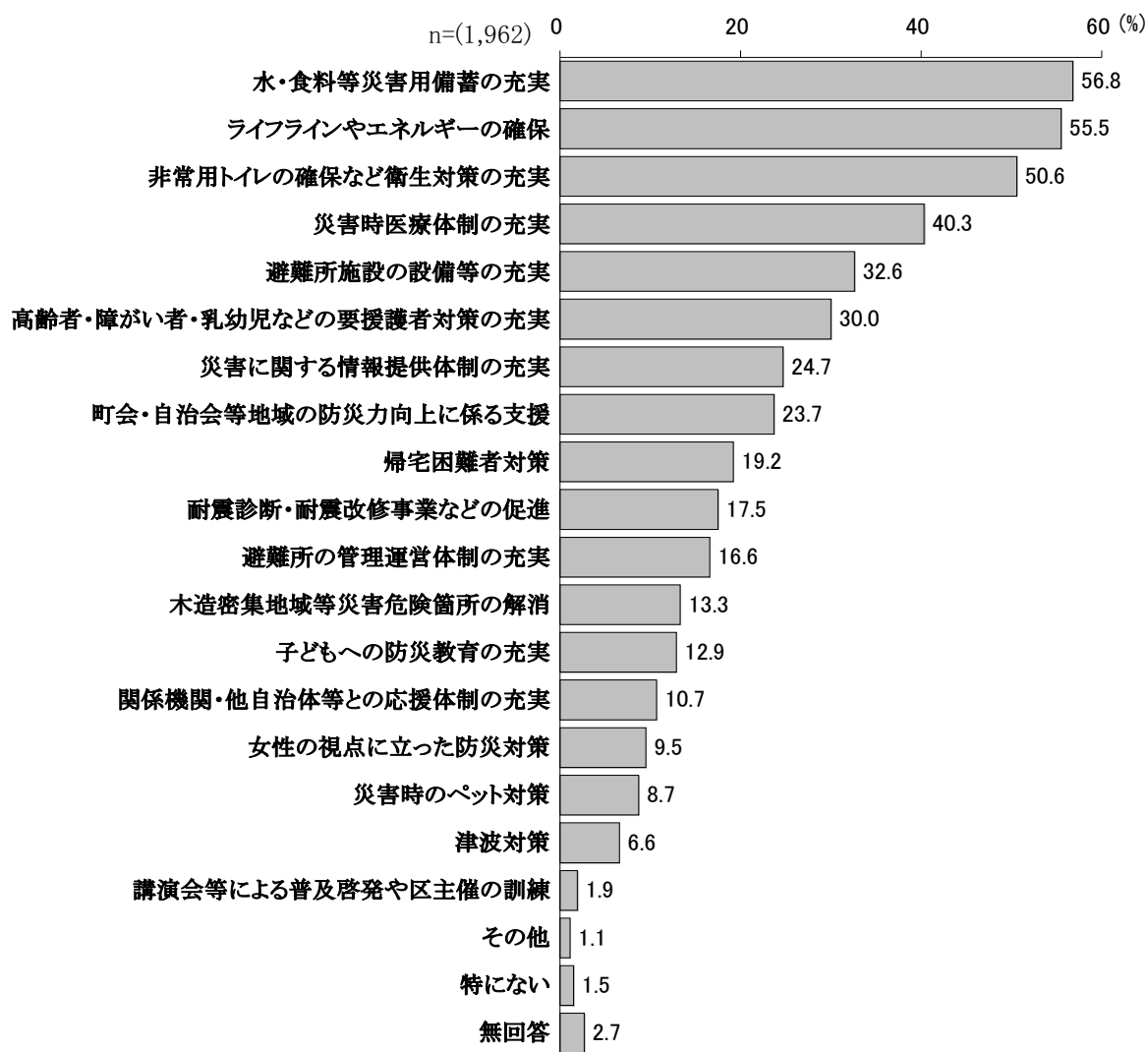


(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “災害備蓄の充実” “ライフライン・エネルギーの確保” “衛生対策の充実” が5割台で上位

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(〇は5つまで)

図2-8-1 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「水・食料等災害用備蓄の充実」が56.8%で最も高く、以下「ライフラインやエネルギーの確保」(55.5%)、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(50.6%)の順となっている。

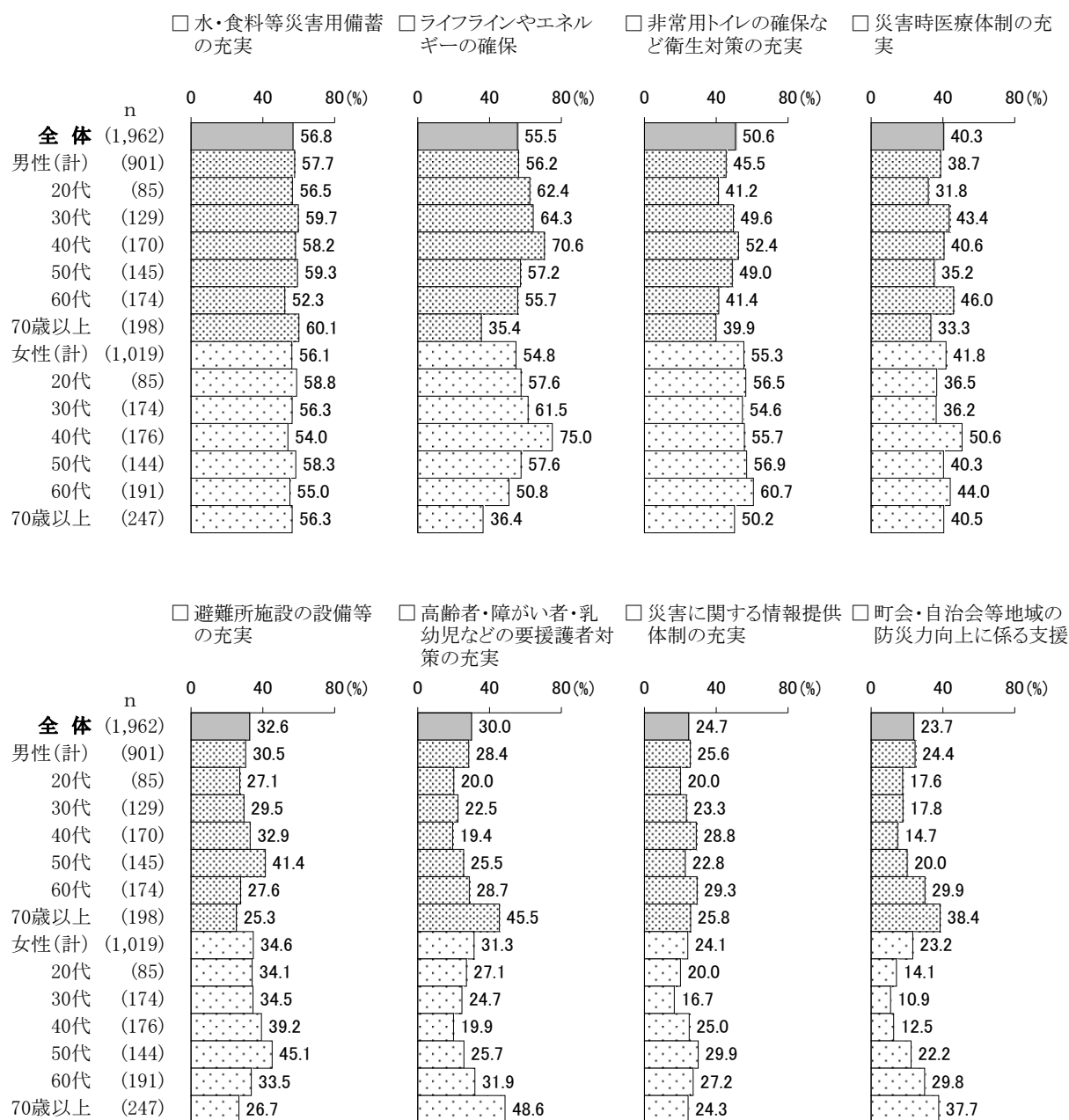
第3章 調査結果の分析

性別で見ると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」については、男性45.5%、女性55.3%と、女性で9.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「ライフラインやエネルギーの確保」については、男女とも40代で7割を超えて高くなっている。

また、「避難所施設の設備等の充実」では、男女とも50代で4割を超え、他の年代より高くなっている。「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」は男女とも70歳以上で4割を超え、他の年代より高くなっている。

図2-8-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと／上位8項目



ライフステージ別で見ると、「水・食料等災害用備蓄の充実」は、家族成長後期で64.0%と高くなっている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」は、家族成長中学校期で75.0%と、他のステージより高くなっている。さらに、一人暮らし高齢者では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」が56.2%と、他のステージに比べて高くなっている。

図2-8-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

